

県教育センター学びの丘の事業内容とセンター機能について

研 修 課

【要旨】 県教育研修センターにかわり、新たに県教育センター学びの丘を設置し、教職員研修の拡充、教育相談の充実、生涯学習支援、カリキュラムセンター、環境学習情報センター、教科書センターの機能の新設及び充実を図る。

教職員研修については、教員の資質向上を図るため、これまでの研修内容の拡充及び体系の見直しを図り、計画的な教員研修を実施する。体系の見直し内容については、教員の指導力、課題解決能力及び、総合力の育成を基軸として、教員のライフステージに対応した基本研修、専門研修、長期研修を充実させるものとする。

【キーワード】 教職員研修、研修体系、教育相談、生涯学習支援、カリキュラムセンター、環境学習センター、教科書センター、eラーニング、教育iDC

1 新センターの概要

県教育研修センターにかわり、平成17年4月1日より「和歌山県教育センター学びの丘」(以下、「センター」という)を、田辺市新庄町に開設する。

センターは、教育関係職員の研修、教育機関の指導並びに教育に関する専門的及び技術的事項の調査研究を行うとともに、県民の生涯学習を支援し、教育の振興を図るため、図1に示す事業を実施する。

これまでの新規採用教員研修、5年・10年経験者研修、教科や職務に応じた研修、長期研修員研修等の研修事業に加え、特色ある教育や授業づくりを支援するための「カリキュラムセンター」、環境や防災等の情報提供と学習を支援する「環境学習情報センター」の他、「中央教科書センター」等の機能を加え、内容の充実を図る。

また、教員が互いに学び合う仕組みを取り入れた「きのくにeラーニング」の推進、児童生徒の学習意欲を喚起するため理科、情報関係等の高度な施設設備を授業に生かす「カリキュラム開発推進事業」、児童生徒や県民にふるさとの文化、歴史、自然等の学習教材を提供する「教育iDCコンテンツ開発事業」を新たに実施することになっている。

教育相談については、昨年4月、県民交流プラザ和歌山ビッグ愛に移転した教育相談室が、心の教育相談及び特別支援教育相談のセンター的役割を担い、学びの丘の紀南相談課及び4地方に設置する「地方教育相談ルーム」を統括しながら相談事業を行うことにしている。

生涯学習支援については、大人や子どもが集い、学ぶ、紀南地方の生涯学習の拠点として、多様な学びの機会や情報を提供するとともに、学習相談にも対応する。また、近隣市町村や高等教育機関、NPO等と連携し、地域の活性化や町づくりなどに貢献できる人材を育成する。

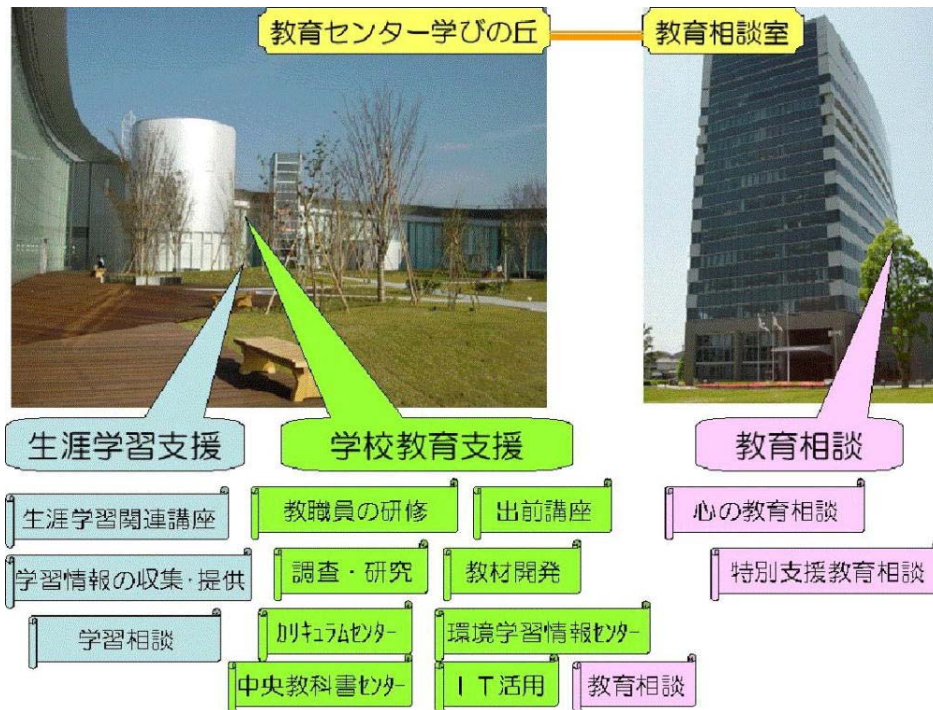


図1 センターの事業概要

2 教職員研修体系

センターにおける教職員研修については、今日的教育課題に対応した教員の資質向上を図るため、これまでの研修体系の見直しを行った。

その概要は図2のとおりで、次の①～⑥に示すように新規採用教員研修，5年・10年経験者研修，教科や職務に応じた研修，長期研修員研修等の研修事業の充実と拡充を行うことにしている。

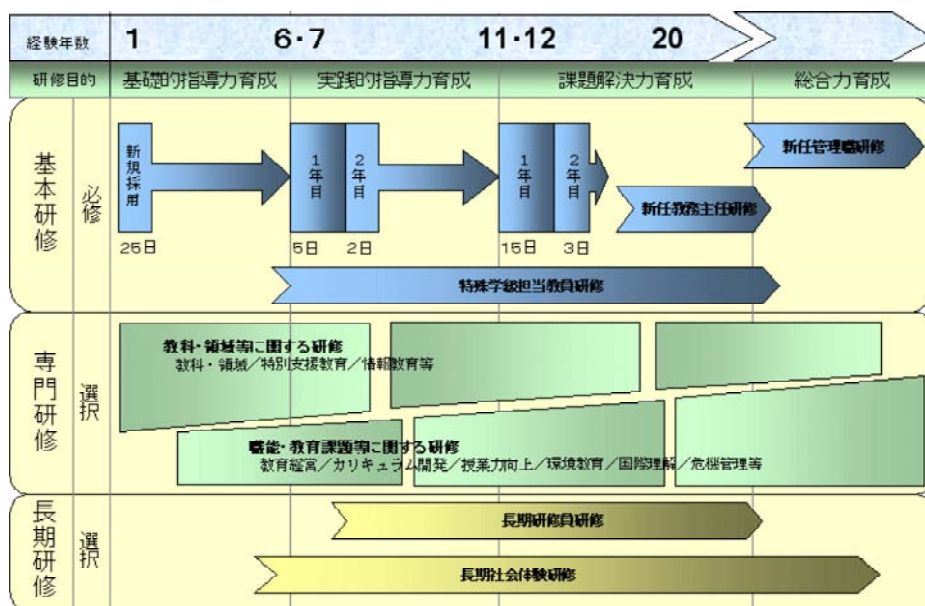


図2 センターの教職員研修体系

- ①原則として、全校種・全職種を対象
- ②経験年数や職務に応じた研修，職能・教育課題研修
- ③最新の施設設備を活用した研修（理科・情報等）
- ④出前研修（学校，地域に出向いて行う研修）
- ⑤長期研修員研修
- ⑥教員の長期社会体験研修

ここで、図2の基本研修，専門研修，長期研修について説明すると次のとおりである。

(1) 基本研修

基本研修とは、教員のライフステージに応じた研修で、初任者研修，5年経験者研修，10年経験者研修，新任校長・教頭研修，新任教務主任研修等の研修である。

(2) 専門研修

専門研修とは、次の①～③である。

- ①教科・領域等に関する研修
教科・領域，特別支援教育，情報教育等の研修
- ②職能に関する研修
教育経営，カリキュラム開発，中堅教員マネジメント，授業力向上等総合的な教育力や管理職及び教職員としての資質・能力の向上を図るための研修
- ③教育課題に関する研修
環境教育，国際理解教育，人権教育，危機管理等今日的な教育課題に対応した課題解決につながる研修

(3) 長期研修

長期研修には、次の①と②がある。

- ①長期研修員研修
教科・領域等における教育課題を研究テーマとした研修
- ②長期社会体験研修
民間企業・社会福祉施設・社会教育施設等における研修

3 カリキュラムセンター機能の充実

センターでは、特色ある教育や授業づくりを支援するため、カリキュラムセンター機能の充実を行う。①～④がその内容である。

- ①カリキュラムづくりに関する調査研究及び情報提供
指導案，教材等の収集及び提供
- ②カリキュラム開発推進事業（図6）……………【参考1】
理科，情報等の高度な設備を授業に活用するためのカリキュラムや教材の開発
- ③きのくにeラーニング（図7）……………【参考2】
グループによる教材開発等，教員が互いに学び合う仕組みを提供
- ④きのくに教育iDC（インターネットデータセンター）（図8）…【参考3】
ふるさととの文化，歴史，自然等の学習教材を県民に提供

4 環境学習情報センター機能の新設 【参考4】

センターでは、環境等に関する情報提供と学習を支援するため、環境学習情報センター機能の新設を行う。①及び②がその内容である。

①環境学習等の教材開発及び蓄積・提供

日常生活と環境の関わりについての理解を深め、環境に配慮した行動がとれるよう、環境問題、エネルギー問題等の学習教材の開発と蓄積

②環境学習等の情報提供及び施設設備の有効活用

書籍・ソフトウェア等の情報収集・提供と活用

次世代エネルギー、水質・大気測定機器、発展的学習用実験機器の活用とデータの蓄積

5 中央教科書センター機能の設置

採択期間中に開催される教科書展示のほか、県内で使用する教科書の保存及び閲覧に供する。

①教科書の展示

②教科書又は教科の研究授業に対する援助

6 教育相談の充実 【参考5】

児童・生徒の心身の諸問題について、学校・家庭・地域の相談に応じることにより、問題解決を図るとともに、その問題発生の予防に努める。このため、次の①～⑤を実施する。

①来談教育相談の実施（図3）

②高校生心をつなぐボランティア・ワークショップ（図4）

③教育相談主事の派遣

④教育相談担当教員養成研修

⑤県立学校心の教育創造支援事業

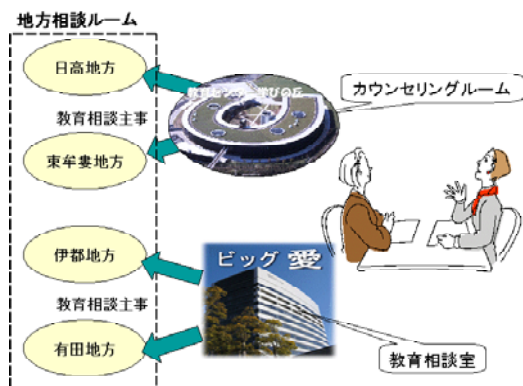


図3 来談教育相談

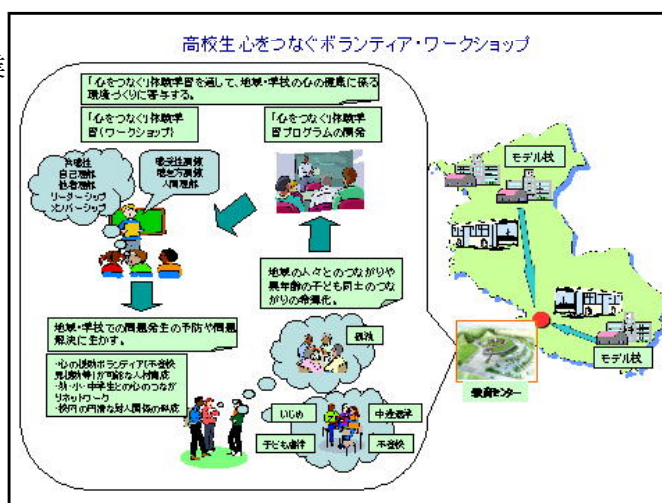


図4 高校生心をつなぐボランティア・ワークショップ

7 生涯学習支援（主に紀南地方を対象とする。）

大人や子どもが集い、学ぶ、紀南地方の生涯学習の拠点として、多様な学びの情報や機会を提供し、相談体制の充実を図る。図5は、そのイメージ図である。

また、近隣市町村や高等教育機関、NPO等と連携し、地域の活性化やまちづくりに貢献できる人材の育成や支援をする。次の①～③は、その支援内容である。

①学習機会の提供

- ・ Big・Uの機能を活用した講座
- ・ きのくに県民カレッジ中核講座
- ・ 文部科学省のエル・ネットを利用した大学の公開講座
- ・ 子どもと大人の交流拠点
- ・ 家庭教育・子育て関連、人権教育関連講座等

②情報の収集及び提供

県、市町村、高等教育機関、生涯学習関連団体等が実施する講座等の体系化と情報提供

③学習相談の実施

どこでどんな活動ができるか、どんな講師がいるかなど、個人やグループからの様々な相談



図5 地域の地図づくりについて議論しているところ

【参考1】カリキュラム開発推進

教育センター学びの丘の施設設備を有効に活用することにより、児童生徒の「情報」「理科」等への興味関心を喚起し、発展的な学習に関する授業づくりを推進するとともに、特色のある教育や学校づくりに資する。

このため、小・中・県立学校の中からモデル校を選び、教育センター学びの丘の施設・設備を活用した研究授業を実施するとともに、その成果を県内各校へ普及する。

なお、カリキュラム開発研修講座を開催し、モデル校を支援する。

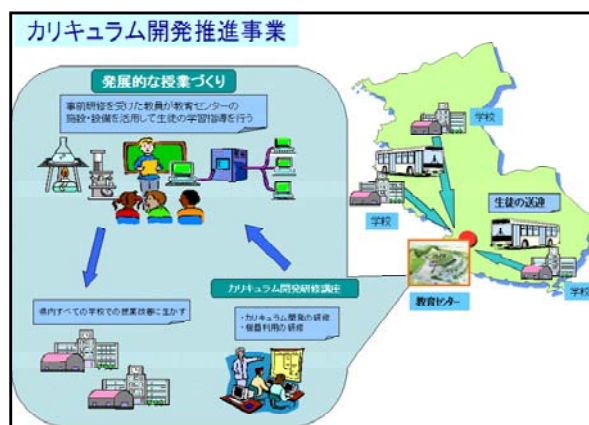


図6 カリキュラム開発推進事業

【参考2】きのくにeラーニング

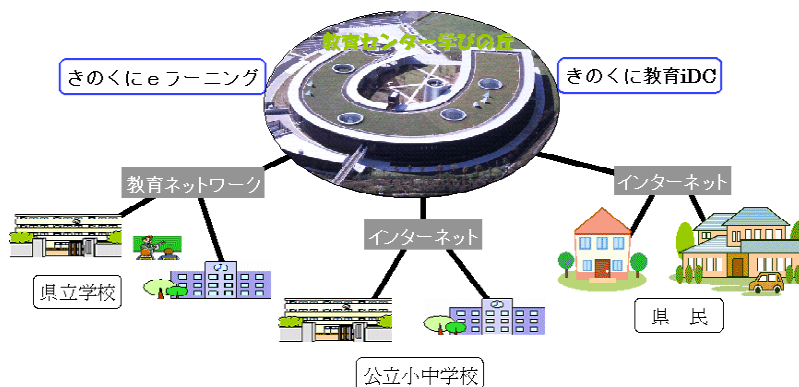
和歌山県内の公立学校の教員で構成された研究グループに対して、教育ネットワークやインターネットを通じて教育用コンテンツ作成の場を提供し、その作成過程を通じて、教員の研修・研究活動を行う。

このシステムでは、教育用コンテンツ作成のための入力用テンプレートを本センターで作成し、フォーマットの標準化を行っている。また、グループウェア機能を活用して、遠隔地にいる教員同士の教育用コンテンツ作成を支援することになっている。

さらに、このシステムのデータベース機能によって、作成された教育用コンテンツを

他の教員にも検索・閲覧できる環境を提供し、授業ノウハウの共有や教材の活用を図っている。

図7 きのくにeラーニング
ときのくに教育iDC



【参考3】教育iDCコンテンツ開発

きのくに教育iDCに、和歌山県内の文化、歴史、自然等の分野別に地域素材を蓄積するとともに、インターネットを通じて利用できるようにし、児童生徒や県民の教養教育の充実に資する。

- ① 学校教員，大学教員，学識経験者，NPO，民間事業者，社会教育主事，指導主事等でワーキンググループを編成する。
- ② 文化，歴史，自然，芸術・スポーツ産業等の各分野で地域素材の収集と学習教材を開発する。
- ③ インターネットを通じて児童・生徒や県民に配信する。

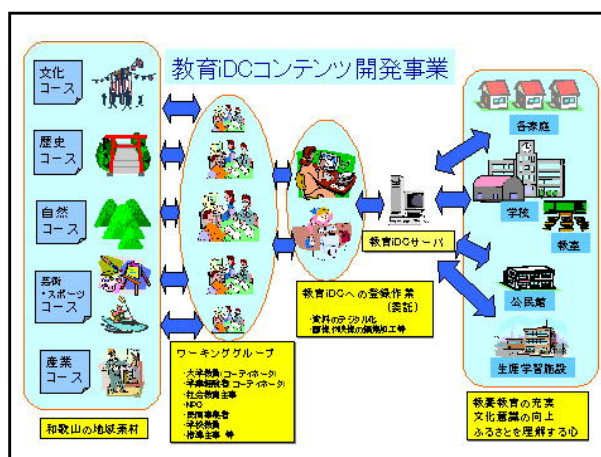


図8 教育iDCコンテンツ開発

【参考4】環境学習情報センター機能

気象観測について
 気温、湿度、降水量、風向、風速などの気象データを自動収集し、1日、1年の変化を観測する。
 また、他の地域と気象データを交換することで、気象の違いについて比較学習する。
【備品】 定点観測システム(インターネット百葉箱)等
【学習指導要領】 中学校理科第2分野「天気とその変化」

環境分析について
 エネルギー資源の利用と環境保全との関連や科学技術の利用と人間生活とのかかわりについて認識を深める。
【備品】 電子顕微鏡一式、水質用検知管、大気成分検知器等
【学習指導要領】 中学校理科第1分野「科学技術と人間」、理科第2分野「自然と人間」

新エネルギーについて
 新エネルギー資源について理解する。
【備品】 燃料電池自動車、水の電気分解装置
【学習指導要領】 中学校理科第1分野「科学技術と人間」



図9 環境学習情報センター機能の概念図

【参考5】教育相談

①心の教育相談

児童生徒の不登校等心理的諸問題について、教職員等指導者の相談に応じるスーパービジョン面接を継続的に実施するとともに、必要な場合には保護者、児童生徒の相談に応じることにより、問題解決への援助を行う。

②特別支援教育相談

障害のある子供についての教育相談を行う。盲・ろう・養護学校と連携しながら、教員の指導上の相談に応じる一方、保護者・子供本人の来談相談にも応じる。

③電話相談

相談専用電話を開設し、県民からの教育相談に応じる。特に「いじめ」に関する児童生徒、保護者からの相談にも対応していく。

(9時～12時、13時～17時)

④専用電話

- ・教育相談室 (073) 422-7000
- ・紀南相談課 (0739) 23-1988